



正しい日本語が 英語力の 価値を高める

映画字幕翻訳家の古田由紀子さんから
日本語の奥深さ、無駄のない会話術の
極意を教えてくださいました。

撮影/益谷高晴 構成/大内弓子

映画字幕翻訳家

古田由紀子

英語とフランス語の翻訳を手がける。学生時代に通訳のアイトを志した。下京暮らしで、字幕翻訳の神様といわれる清水俊二氏に師事。翻訳を始めて当初はテレビの吹き替え翻訳をして、後に映画の字幕翻訳に転向する。古田さん自身の話し方や物腰からも、彼女が字幕を手がけている映画の会話と同様、優雅や美しさが滲み出ている。

豊富な語彙が 的確な表現を可能にする

私たちの日常生活は、言葉を使うことで成り立っている。友人や恋人との会話、仕事の打ち合わせ。あらゆる場面で、言葉によって考えや思いを伝えている。言葉には自分が現れてしまうもの。だから、言葉を磨くことは、女を上げるための重要なポイントになるともいえる。

「言葉についているのは、その人の人となりや生き方、すべてを反映するものだと思います」

映画の字幕翻訳家として活躍している古田由紀子さんも、きつぱりとしていう。古田さんが専門とするのは英語とフランス語。それらの言語を使ったセリフを日本語に訳するという仕事の中で、常に、言葉について

考えてきた。「字幕翻訳には、2つの段階があるんです。ひとつは、しゃべっている内容を解説すること。ここで外国語の能力が必要になります。そして次に、解説したものを、日本語でどう表現するかを考えていく。実は、字幕に大切なのは、その2つ目の段階なのです。作品の中の会話を、いかに豊かに日本語で再現するかそこが勝負です。ですから字幕翻訳は、外国語の能力よりも、日本語の力が要求される仕事です」

語学力を生かした仕事に憧れる女性も多い。字幕翻訳もそのひとつ。でも、外国語さえできればそうした仕事に就けると考えるのは、間違った考え方のようだ。むしろ、熟練した日本語こそが重要なのだ。しかも、文字数が限られている映画字幕では、最小限の日本語で観客に多くのことを伝えなければならぬ。日本語に対する意識も、当然、より深まっている。

「人って、しゃべるスピードより読むスピードのほうが遅くて、だいたい1秒に4文字ぐらいしか読めないんです。ですから、字幕に入る情報は、うまくいって、しゃべってる内容の7割。最悪の場合は5割。すべてを盛り込むことはできません。それを盛り込むことはできません。短くする必要が生じます。長い会話を切り落とすのではなく、濃縮するといっています。その人がいちばん

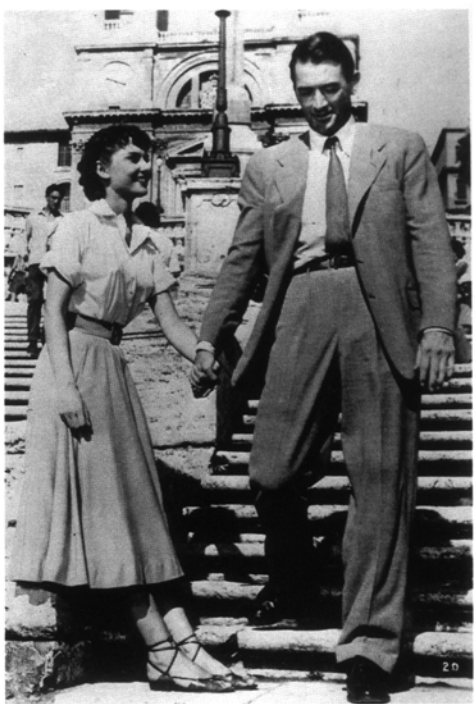
いたいことは何なのか、会話のエッセンスをつかみとるというのから、それを表現するのに最適な、日本語を探していくわけです」

伝えたいことが濃縮された言葉を選ぶ。字幕翻訳に必要なこの作業は、日常会話にも通ずるものだと、古田さんはいう。会話というものは、やはり、何がしたいのかがわかることが最も大切だからだ。では、どうすれば、的確に伝わる言葉を選べるようになるのだろうか。

「まず、語彙を豊富に持っていることが必要だと思います。翻訳をするときにも、訳し方をひとつしか知らないのと、たくさん選択肢を持っているのとでは、違ってくるんですね。たとえば、「エレガント」という言葉が出てきたとしますでしよ。「優美」と訳すのか、「上品」と訳すのか、それとも、別の言葉のほうがいいのか。そうやって、その人の思いに近い言葉は何なのかを突きつけていくんです。

英語には「art of conversation」という言葉があります。あえて訳すとしたら「会話の美学」。つまり会話をいかに美しくオシャレにするかが大事なことです。大人の一種のゲーム。19世紀のフランスのサロンではそんな会話が飛び交っていたに違いありません。

言葉を多面的に捉えるために、古田さんも日々努力している。類語辞



写真協力/川喜多記念映画文化財団

「ローマの休日」の

オードリー

映画の中の「スタイリッシュ・ウーマン」として古田さんが挙げてくれたのが、オードリー・ヘッパーン。容姿、演技、言葉づかいのどれをとっても美しく、もっとも「女優らしい」と絶賛する。オランダに住んでいた彼女は英語はネイティブではない。美しく、無駄のないセリフを優雅に話す。数ある出演作品の中でも「ローマの休日」で演じていた女王を演じてもさまになるのはオランダ貴族の血を引いていたからかもしれない。

典をひも解くことも多い。そればかりか、人名や地名から、医学、ファッション、コンピュータ、六法全書まで、ありとあらゆる日本語の辞典をそろえている。言葉の背景にあるものを、きちんと把握するための。

「やはり、情報量は大事だと思えます。知ってることが多いほど、表現は豊かになる。ただ、辞書に書いてあることとらわれすぎてはいけないと思います。最終的には、自分の感覚が大切。たとえば、私はオペラ

が大好きなんですけど、リブ・タイラー主演の『オネーギンの恋文』を翻訳したときは、この作品を目頃からオペラで観ていたことが良かったんじゃないかと、自分で思ってるんです(笑)。オペラを観たことがなくて、本や資料から得た知識だけで訳していたら、まったく違ったものになっていったのではないかと。ですから、経験を重ねていくということも、言葉をブラッシュアップすることにつながると思います」

日本語をブラッシュアップする キーワード

1 ウディ・アレン

NYを拠点に活動する映画監督であり、フランス語は特別な存在。フランスの作家フランソワーズ・サガンの『恋しき人』にはの訳で知られる朝吹登水子さんは、

2 フランス語

美しい言葉を愛する古田さんにとって、フランス語は特別な存在。フランスの作家フランソワーズ・サガンの『恋しき人』にはの訳で知られる朝吹登水子さんは、
「私もあの美しい言葉をしるってみたいからと書きたという。古田さんがフランス語を学ぼうと思ったのはまさに、朝吹さんと同じ気持ちからだった。」